



エリザベス・フィッティング 著
里見 実 訳

『壊国の契約
NAFTA下メキシコの
苦悩と抵抗』

本書は、NAFTA締結以降、メキシコ農業がどう変化したのかを、メキシコの農村でのフィールド調査で得た成果をもとに詳しく分析した本であり、著者はカナダの文化人類学者である。原著名は『トウモロコシのための闘い—メキシコ農村における農民・労働者・GMコーン』であり、邦訳の書名は『異常な契約』（ジェーン・ケルシー編著）を意識したものになっている。

メキシコは、80年代に累積債務危機に直面し、その解決のため80年代後半から経済自由化政策を採用し、その最終的な到達点が94年に発効したNAFTAであった。NAFTAによってメキシコは米国、カナダとの間の関税を徐々に削減・撤廃していったが、それによってメキシコの農業・農村にどのような影響が出たのかは、TPP交渉に入ろうとしている日本にとって非常に関心が高いテーマである。

著者は、NAFTA後のメキシコ農業を「新自由主義コーン体制」と名付けており、メキシコでは米国からトウモロコシ輸入が急増し、メキシコは食料の多くを米国に依存するようになった。メキシコの農村には小規模な農民が多くおり、これらの農民は農産物価格低下によって生活が困難になり、メキシコシティや米国への出稼ぎを余儀なくされた。

メキシコではトウモロコシの粉から作っ

たトルティーヤを主食にしており、メキシコ人にとってトウモロコシは、日本人にとっての米に相当するシンボリックな食料である。そのメキシコ産トウモロコシに遺伝子組換えの種子が発見され、大きな問題に発展した。

メキシコで生産されているトウモロコシは主として白トウモロコシ（主に食用）であり、米国から輸入される黄トウモロコシ（主に飼料用、エタノール用）とは用途が異なる。米国からのトウモロコシ輸入が増大しているのは、メキシコ国内で畜産業が発展しているためであり、メキシコ国内での白トウモロコシの生産量は減少していない。また、アボカド、トマト、アスパラガスなど輸出が増加している農産物もあり、NAFTAのメキシコ農業に対する影響は品目別・地域別に分析する必要がある。

とはいえ、NAFTAによってメキシコ農業が大きな打撃を受けたことは確かであり、米国からの輸入増大によってトウモロコシ価格が下落し農業所得は減少した。80年代後半からの財政改革によって小農に対する支援策は削減され、NAFTA後に導入された直接支払いも不十分なものである。その結果メキシコ農村で起きたことは、出稼ぎの増加と農村の荒廃であった。

本書では、こうしたメキシコの農村部で起きた現象について詳細に記述しており、NAFTAに代表される新自由主義的な経済政策を批判している。メキシコの農村部に足を運ぶ機会が少ない日本人にとって、本書はメキシコ農業の実態を知る貴重な文献であるといえよう。

——農山漁村文化協会 2012年8月

定価2,600円（税別） 281頁——

（基礎研究部長 清水徹朗・しみず てつろう）